

「人はパンだけで生きるのではなく」
マタイの福音書4章1-4節

はじめに

人は何によって生きるのか？

主イエス様は、「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる」という旧約聖書を引用なさって、人はパンだけで生きるものではないことを強調なさいました。それから2千年経ちますが、「人はパンだけで生きられる」と思っている人が多くいますし、イエス様のことばは、知らないか、知っていてもそれを軽んじているのが現状ではないでしょうか。

そこで、イエス様の言われたこのことばを、二つに分けて考えてみましょう。

1. 人はパンだけで生きるのではなく、

(1) からだ

からだは、良い食べ物によって作られ、健康になります。本やテレビ やインターネットでは、健康に良い食べ物についてたくさんの方が書かれたり、言われたりしています。

健康には、適度の運動が必要と言われ、ウォーキングが良いと勧められています。体操教室に通う人も多くいます。

さらに、良い睡眠も必要です。

このように、健康に生きるための努力が奨励されています。これは、からだが生きていくために必要なものです。

(2) 心

人は、からだの健康だけでは生きていけないでしょう。心も豊かになる必要があります。心を豊かにするものとしては、本を読む、映画・演劇・スポーツを観る。人と付き合う。スポーツをする。旅行に行くなどなど、たくさんあります。

生活が苦しいときは、娯楽どころではないと思う人もいるでしょうが、それでもラジオを聞いたり、テレビを観たりして、心に余裕を持つとうとします。

このように、心を豊かにすることも、生きていくために必要です。

しかし、人は、からだの健康、心の豊かさだけでなく、魂の健康と言いますか、もう一つの生き方を教えています。これこそ、人間が本当に生きるという道なのだと、聖書とイエス・キリストは教えました。

2. 神の口から出る一つ一つのことばによる。

(1) 神

神とは、どのような方でしょう。日本では、「八百万の神」というほど、神はたくさんいると考えられています。しかし、キリスト教では「神は唯一」と言います。それが気に入らないという人もいます。しかし、この世には、一つしかないものがあります。太陽も一つ、月も一つです。夫や妻も一人です。夫や妻が一人以上いると問題が起こります。昔は、妻が何人もいるという人もいましたが、問題が起きやすく、幸せになりにくいので、世の中が進歩するにつれ、現在では、一部の社会を除き、世界全体が「一夫一婦制」になって来ています。

ですから、「神はただひとり」と言っても変ではないのです。たくさんの神々を尊敬するといっても、裏をかえせば、それはどれも本当の意味で尊敬していないということになりませんか。

「宗教はみな同じだ。私は、神社の神も、仏様も、イエス様も尊敬している」と格好をつける人がいますが、その人は何も知らないからそう言っているのです。たとえば、イエス様を尊敬するというなら、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」と言われたイエス様のことばも尊敬するはずです。

ところで、聖書でいう神は、天地万物をお造りになった神で、人間をもお造りになったので、人間にとって、神はこの神しかいないのです。そして、この神は、人格をお持ちですので、お造りになった人間に、ご自身がどのような方で、何を思っているかをお示しになろうとされました。

(2) 神は語られた

ですから、神は「語られた」のです。このことはとても大事です。神が語られなければ、人間は神について何も分かりません。神がいるであろうという事くらいは分かっても、その神がどういう方かは分かりようがありません。

たとえば、私がしゃべらなければ、皆さんは、私がどこで、いつ、どんな父と母から生まれ、どこで育ち、今日まで来たか分からないでしょう。

なぜ今、私たちは神について、ああだ、こうだと語れるのでしょうか？ それは「神が語られた」からなのです。

このように、神は「語られ」ました。ですから、「神のことば」が存在します。私たちは、この神のことばを知り、それによって生きることが出来るのです

(3) 「神のことばによって生きる」と言われた背景。

ところで、このイエス様のことばは、旧約聖書「申命記」8章3節の引用です。

そのことばは、どのような背景で語られらのでしょうか。それは、神の民イスラエルが

エジプトでの奴隷生活から救い出されて、約束の地に向かう途中、40年間荒野での生活をした時に、語られました。

その前後を引用しますと、

「あなたの神、主が、この四十年の間、荒野であなたを歩ませられた全行程を覚えていなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたがその命令を守るかどうか、あなたの心の内にあるものを知るためであった。それで主は、あなたを苦しめ、植えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった」（申命記8:2-3）。

つまり、人生には、苦しいこと、つらいことがたくさんあります。その時はパンがいくらあっても、楽しみが多くあっても生きられるものではありません。

そのとき人を生かすものは、「神のことば」であることを、神は当時の人に教えよとされたのです。

3. 神のことばによって生きるとは。

(1) 神のことばである聖書。

神は語られました。そして、その神のことばが、文書に残されているのです。それが聖書です。聖書は、現在は一冊の本に成っていますが、これはひとりの人が書いたものではありません。実に40人以上の人々によって、1500年もの間にわたって書かれました。

聖書は、イエス様の時代には既に完成されていた旧約聖書39巻と、イエス様の後の第1世紀に完成した新約聖書27巻、合わせて66巻から成ります。

聖書はこう言っています。

「聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと、戒めと、矯正と義の訓練のために有益です」（Ⅱテモ3:15-16）

「預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったからです」（Ⅱペテ1:21）

(2) 聖書とイエス・キリスト

聖書の目的は何でしょうか。イエス・キリストはこう言われました。

「あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです」（ヨハ5:39）聖書の目的は、イエス・キリストを教えることです。イエス・キリストは「神のことば」であり、神について、人間の救いの道について教え、導くのです。

「神のことばによって生きる」とは、「神のことばである聖書」によって生きることです。そして、その聖書はイエス・キリストを証言しています。つまり、この厚い聖書は、何を言おうとしているのか。それは、「イエス・キリストによって私たちは救われる」ということです。

イエス・キリストは、2000年前に、ユダヤのベツレヘムでマリヤから生まれましたが、実は、神が人間を救うために、神の御子を人間としてこのように生まれさせた方でした。イエス・キリストは、人々に神の国を語りました。神がどのような方であり、人間に対してどのようなお考えや思いを持っておられるのかを語られ、行いによってそれをしめされました。

それだけではありません。イエス・キリストは、私たちの身代わりになり、罪を負って十字架で死んでくださったのです。

私たち人間はなぜ苦しむのでしょうか。それは、人間が神に背き、神を崇めず、自分勝手に、自分のやりたい放題をして、神に罪を犯し続けているからです。しかし、イエス・キリストは、私たちを救うために、その人間の犯した罪をご自分の身に追って十字架で殺されたのです。

しかし、神様はその死んだキリストを三日目に死から復活させて、天にお返しになりました。ですから今は、神のみもとで、「生きた救い主」として私たちの救い主となって、私たちを救おうとなさっておられるのです。

では、イエス・キリストを知るには、どうしたら良いでしょうか。自分でいくら考えても、イエス・キリストを知ることは出来ません。イエス・キリストを証言しているのは聖書です。聖書によって、私たちは救い主イエス・キリストに出会うのです。ですから、聖書を読みましょう。そして教会に来て聖書の解き明かしを聞きましょう。

イエス・キリストなしでは、聖書は分からないし、聖書なしでもイエス・キリストは分かりません。このように、神のことばである聖書とイエス・キリストは切っても切れない関係にあるのです。

あなたは、神のみことばによって生きていますか？ イエス・キリストによって生きていますか？

もし、あなたが神のことばによって生きていないなら、からだや心は生きていても、魂は死んでいるのです。ここにこそ、あなたの人生の本当の問題があるのです。そこが解決されない限り、あなたの悩みは、本当に解決したことにはなりません。

クリスチャンの方々、あなたは毎日、生き生きと喜びに溢れて生きていますか。もしそうでないなら、毎日みことばに生かされていないからではないでしょうか。信仰が強められますようにと願っています。それなら、みことばを読み、みことばによって生きていくことです。

神のことばによって生きましょう。